

224) ためらい

ここは海辺の小さなホテル 午後を目覚めてテラスに出ると
海の青さをひき裂くように 風を^{はら}孕んだセールが走る
あなたの優しさこわかったから あの日別れてしまったけれど
もう少しだけ勇気があれば ふたりの愛を結んでたはず

ここは海辺の小さなホテル 岬に向かうクルマのなかで
ボリュウムあげてマドンナの歌 聴いてたころを懐かしんでる
わたしあのころ若すぎたから あなたの心見えなかったの
潮の流れに逆らうように 愛の言葉にとまどっていた

ここは海辺の小さなホテル 紅茶色した夕焼け空に
吸い込まれてく鷗のように あなたの中へ翔んで行きたい
涙の数だけ愛があるなら 星の数だけ倖せあるはず
わたしの星を見つけたならば ふたりの倖せ築けるかしら

ここは海辺の小さなホテル すぎた季節を忘れるために
海に落書きできるものなら どんな言葉で記そうかしら
男と女生きてくことは 愛のかたちを合わせることね
愛をためらう女がひとり 舟の行方を追いかけている

ここは海辺の小さなホテル 映画のラストシーンのように
愛をためらう女がひとり 舟の行方を追いかけている